

平成 29 年度 保育園・学校課題検討委員会（第 1 回）会議録概要

1 開催日時 平成 29 年 7 月 28 日（金） 午後 6：30～8：00

2 場 所 飯山市役所 4 階 全員協議会室

3 会議の経過及び発言

1 開 会

2 委嘱書交付

3 教育長挨拶

みなさん、こんばんは。暑い中、お仕事でお疲れのところ、ありがとうございます。また、今回、検討委員をお引き受け頂き、本当に感謝しております。

さて、少子高齢化は日本を覆っておりますが、飯山市も日本の大きな流れの中に入っているのが現状でございます。

皆様ご存じのとおり、今から 2 年前、岡山小学校が閉校となりました。

学校を閉じるということは、100 年 120 年の歴史を閉じるわけで、その背景には卒業生が何千人といるということで、施設がなくなる以上に、大きな諸々のことを地域に投げかけるものがあると、岡山小学校閉校のなかで感じております。

平成 27 年に、文部科学省から 60 年ぶりに公立小学校中学校の適正配置に関する手引きが出されました。そのなかで文部科学省の方針として、はっきりと学校の統廃合を速やかに検討する時期に来ているという考えが、至るところに出ているというのが、読んだ実感でございます。

そのような中で、いろいろな背景があるわけですが、少子化の中でも特に低年齢層といわれている 1 歳～6 歳ぐらいまでの子の減少が飯山市では非常に進んでおり、教育委員会としましては、やはりこの時期が 1 つの大きな節目になるのではないかと判断し、この検討委員会を設置することとなりました。

これまで、市議会等で質疑を受けた際に、私は 4～5 年の間の統廃合は全く考えておりませんと答弁してきたわけですが、私が教育長就任し 5 年が経過し、教育委員会とも検討を重ねながら結論をだしたところでございます。

こうした大きな課題を検討するに当たり、教育委員会で大事に思っているのは、徹底した情報の公開と、情報の提供です。この 2 点については余すことなく行っていき

たいと思っております。それが、適正な判断、あるいはいろいろな考え方に繋がっていくのではないかと思っております。

そうしたなかで、最初に取り組みざるを得ないのが、保育園の課題であると思えます。飯山市の保育は非常に古い伝統と歴史がございます。私立の保育園も含めて、飯山市の保育行政を子どもたちのために、どうしていったらよいかというのが、課題検討委員会の最初の議題になってくるのではないかと理解しております。

最後になりますが、最近いろいろなところで「Future is now (未来は今である)」という言葉を見かけます。その言葉には「未来を創るのは今の子どもたちです。未来の為にも、今の子どもたちを大事にしなければいけない。そのためにも教育環境をよくすることが今の大人の義務である。」という意味があります。

もちろん、地域の活性・存続も関わってくると思いますが、そうしたことを踏まえても「Future is now」を念頭に置きながら、考えていかなければいけないことではないかと思っております。いずれにしましても、委員の皆さんの忌憚のないご意見や、いろいろな方の意見をいただいて、まず委員会の大きな方向性をだしていきたいと思えます。大きな方向性が出されましたら、別の検討委員会の設置で、具体的に話を進めてまいりたいと思えます。その点もご理解いただきながら、検討していただけたらと思っております。

飯山のこどもたちのために、よろしく願いいたします。以上でございます。

4 自己紹介

5 委員長・副委員長互選

6 委員長・副委員長あいさつ

委員長：服部秀人さん

委員長を仰せつかりました服部です。子どもが通っていた外様保育園と外様小学校は、今はどちらもありません。地元から保育園と学校が消える寂しさも経験しておりますが、その結果、現在の状況を拝見しますと、子どもたちにとっては良かっただろうと思っておりますし、親や祖父母の気持ちにも、当時とは異なった思いが暮らしの中に存在しているように感じております。今の子どもたちの未来のために、今考えるということだと思えます。よろしく願いいたします。

副委員長：井田秀行さん

副委員長を仰せつかりました井田と申します。信大で生物や生態、森林や自然を研究しており、子どもたちや学生に教えています。自然を守るためにも教育がいかに大事かと感じております。よろしく願いいたします。

7 諮問書交付

教育長から服部委員長へ諮問書の交付

8 議 事

(1) 会議の運営について

① 会議、議事録の公開について

会議は原則傍聴可としておりますが、委員長が非公開とすべき事案が発生、想定される場合は会議に諮り非公開とすることができるように運用します。

議事録は要点記録とし、発言者の意図を違えずに議事録とします。また、議事録の要約をホームページ等に公開していきたいと思っております。発言の委員につきましては氏名が特定できないようにしたいと考えております。

② 検討委員会設置要領について

(資料1、資料2)

③ 今後の予定について

(資料3-1、資料3-2)

(2) 会議資料の説明

- ・ 教育大綱について
- ・ 飯山市の人口推移等（飯山市総合戦略概要版、資料4、資料5）
- ・ 保育園入園案内
- ・ 飯山市園児数の推移等（資料6-1、資料6-2）

* 資料5、6-1、6-2は非公開とさせていただきます。

(3) 質疑等意見交換

(委員長)

委員の皆様、課題事項等、どんなことでもお聞かせいただければ今後役に立つと思います。お感じのままで結構ですので、いかがでしょうか。

(A委員)

質問や意見ではないのですが、先ほどの資料説明の中で、今後のスケジュールとして検討課題の中に「市街地保育園・幼稚園等」とあります。今までにも市街地保育園について課題があったかと推測されるのですが、情報として、これまでの経過や市街地保育園について取組があったのかどうか、教えていただければと思います。

(委員長)

事務局で掌握できている内容がありますか。

(事務局)

資料6-2をご覧ください。園児数の減少に伴い、小学校へ上がるにあたり、大勢の中で過ごさせたいという意向から、今年度、市街地の保育園間で年長児が転園した例もあります。市街地に限りませんが、やはり子供が少なくなっている中で、小学校を見据える年長さんについて、地区で1つの園というところもありますが、市街地については2つの園があり、年中クラスとの混合保育という状況が起きていることが大きな課題かと思えます。

(事務局)

捕捉させていただきます。過日の議会一般質問においても、市街地の保育園については統合したほうが良いのではないかという質問も出たところでもあります。

そうした経過も含めて、できれば市街地保育園について、この委員会で中心的に検討いただければという考えでおります。

(B委員)

制度が変わりまして、3歳児保育は15人に対し保育士1人。現在3歳児は25名、2クラスに分けて保育士を1人ずつ配置しています。しかし4歳児の国基準は30人に対し保育士1人ということで、今の3歳児が4歳児になった時は1クラス1人の保育士でよいわけですが、そうすることもできない。すると、保育の質の問題でなく、経営上の問題として非常に効率が悪いということになります。本来、子ども30人に対し保育士1人の措置費用で賄えるところ、2人の保育士を賄っていかなければならない。さらに気になる子どもがいると1人の保育士加配が必要になり、実際24人の保育士で140人の子どもを見るようになります。これが120人になっても同じ保育士の数が必要になってくるという現状があるわけです。

私立の経営としては非常に難しい時代に入ってきていると、感じております。

(委員長)

今お聞きのとおり、経営上の懸念事項ということでございますね。

(B委員)

もう一つよろしいでしょうか。

飯山地区、市街地の場合は3つの保育園と1つの幼稚園があります。

広域で他市町村から来ている子もおりますが、おおよそ飯山小学校へ進学します。

その場合、各保育園の連携が必要になってくるわけですが、実際問題として日頃の保育を連携して行うというのは不可能に近い。連携を取っていく上に飯山小学校の位置は非常に大事になってくるわけです。飯山小学校以外のところは、だいたい一つの保育園から一つの学校へ入っていくので連携が取りやすい。保育園同士の連携ということが色々出されますが、ここをなんとかしないと、この次の課題である小学校における教育の充実というところで問題が生じてくるなあということを思っております。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。ほかにありませんか。

(C委員)

市街地保育園の1つでは今年度の年長児が、もう1つの市街地保育園へ転園していきました。

保護者から「大勢の友達の中で、学校へ行くまでの1年間をしっかりと育てたい」という気持ちを聞き、相談の結果、保護者が決心されて動くことになりました。

すると、その年長児の保護者よりも、その下の学年の保護者が大変不安になられて、去年、教育委員会から説明にきていただきました。

その際、保護者の方にアンケートをとらせていただいて、まとめたものを、教育長へお渡ししてあります。親の気持ちも大事にしながら、ただ子どもたちのこれからの成長というものも第一に考えながら、お話を進めていっていただければと思います。以上、私個人の気持ちです。

(委員長)

ありがとうございます。委員の中で保護者の方、ご意見ありますか。

(D委員)

昨年度、教育委員会の方に来ていただいて、子どもの減少等お話をお聞きして、保護者会でも意見交換しました。子どもの数が少ないので、市街地のもう1つの保育園との交流を多くもってほしいという意見はありましたが、統合して一つの園にほしいという意見は、なかったように思います。教育委員会からは「1名でも通いたい児童がいる限り、保育園は存続する」と聞いて安心していましたが、ここに来て、また統合に向かっているようなお話で困惑しております。登園時の送迎は、県町や新町の南の方から、小さい子を連れて徒歩や自転車での送迎は冬を考えても危険で不安を感じます。送迎の面からも、しろやま保育園への統合は困るという気持ちでおります。

(委員長)

保護者の方のお気持ちをお聞かせいただき、ありがとうございます。

(E 委員)

用語が分からないのですが「市街地保育園」というのは、どのようなことですか。

(事務局)

申し訳ありません。飯山地区内の保育園ということでお考えください。

(F 委員)

今年度は年長児が 15 名ということで非常に活気がありますが、4 歳児クラスの保護者からは、年長児が卒園したらどうなるんだろうという声を聞いています。園は、増改築をしてきておりますが、園舎自体は昭和 48 年築と一番古い園舎ですので、そのなかで充実した質の高い保育をしようと、がんばっているところです。

(G 委員)

混合保育のメリット、デメリットってかなりあるんでしょうか。

メリットの方が大きいでしょうか。

(F 委員)

メリットの面で言うと、思いやりの心の芽生え、異なる年齢の子と繋がりができて、小学校に上がっても関係が繋がっている。デメリットは、同じ年齢の子どもたちと過ごす時間が少ないので、発達面で切磋琢磨はどうかのかなと思います。少人数では経験できないようなこともあるのかなと。

(委員長)

「混合保育」というのは、年齢の異なった園児の混合ということによろしいですか。

(G 委員)

そういうことです。混合保育は、何歳と何歳で行っているのですか。

(F 委員)

基本は 4 歳児と 5 歳児ですね。

(G 委員)

子ども本来の成長のことを考えたら、別の方が良いのでしょうか。

でも分けたら少なすぎますよね。

(F 委員)

保育の中では、都会の保育園でも3～5歳の交流クラスというか疑似兄弟というような保育を行っているので…。飯山市や長野県の主流は年齢別保育ですが。

(C 委員)

発達に合わせての保育が指針として出ていますので、年齢の枠というよりは、興味を持っている場所とか、課題を選べる保育として、異なる年齢の中で過ごすというのは良いのではと私は思っております。

(G 委員)

かなり自由保育になっているのでしょうか。

(C 委員)

自由ではないです。保育士が課題設定し保育を行うということです。

(G 委員)

そうですか。

(委員長)

飯山市の現状では、混合クラスは多いのでしょうか。

(F 委員)

半々ぐらいですかね。年中児・年長児の混合。先ほど事務局から説明もありましたが、20名以下は混合の方が集団生活など良いこともあります。

(H 委員)

私は瑞穂地区なので瑞穂保育園に行くのが当たり前かなと思っていましたが、飯山地区の場合は住所地によって園が決められているのでしょうか。

(事務局)

保育園については、基本的に住所地で分けているところは、どこもありません。

お住まいが飯山地区のどこだと、園はここ、ということはありません。また、他地区の子どもさんでも、保護者が飯山地区に勤めているから飯山地区の保育園に預けたいということも可能です。

(H委員)

それは、他の地区も同じということですか。

(事務局)

はい。ただ小学校は住所地によって決められていますので、住所地と異なる区域の園に通っていて、地元の小学校へ上がった時に1人ポツンという状況は避けたいということはありません。

(B委員)

今の意見に関連して、私の園は飯山市のよその地区の子もいれば、木島平村や中野市の子もいるという現状です。混合保育はしておりませんが、時々5歳児を中心に4歳児3歳児の子が一緒になって活動することはあります。お散歩時に5歳児が3歳児の手を引いて、というようなことはあります。下の子は喜んでついていきますし、上の子は小さい子を連れて良い顔をして歩いているというようなこともあって、心のつながりという面では、混合保育はプラス面があると思います。

現場では、その都度、選択していけるような柔軟性はほしいなと思います。

(委員長)

現状ではそういう状況に近いということですね。柔軟性の。

(B委員)

そうですね。日常的には難しいけれど、混合保育はプラスが多いと思います。

(G委員)

飯山市の目指す姿の中に飯山らしい学校教育という明文がありますが、そうなるといいですね。

(B委員)

保育園でも学校でも、少人数クラスは人間関係が固定されてしまって、特別元気がいい子がいますと、その子に掌握されてしまうといいますか、その子に集団が左右されてしまう。ある程度の人数を確保するという点では、混合保育・連合の方がいいかもしれませんが、非常に難しい問題だと思います。

とくに市街地というか飯山地区の場合には、それぞれの園児数が極端に違ってきていますので、保育園の成り立ちからして一緒になるというのは困難だと思います。

(G委員)

小学校に行く前段の保育ですので、小学校に行ってから、それが、どのように生かされるか、あるいは、どのような壁にぶつかるか、両面あると思いますが。

(B委員)

ですから、子どもたちがどのように育っていくかという姿を捉えないと、小学校教育にはつながっていかないと。

(委員長)

皆さんのお話を伺っておりますと、私自身、大変勉強になります。基本、会議は1.5時間とさせていただきたいと思いますので、本日はこの辺で会を閉じさせていただきたいと思います。会議で必要と感じたことがありましたら、私または事務局へお知らせいただければと思います。よろしいでしょうか。

(I委員)

次回への要望ですが、保育園の状況というのは、やはり現場の人の意見でないとよくわからないことがあります。できるだけ丁寧に現状をお話しいただかないと、こうしたらどうかということを適当にはお話しできませんので、次回はもう少し丁寧な説明と情報をいただいて、議論させていただきたいなと思います。

(委員長)

委員長の私からのお願いは僭越かもしれませんが、委員の皆様、現場の状況をいろいろお聞かせいただければと思います。事務局も、ご指摘通りお願いできればと思います。いろいろ内容があり不十分は承知ではありますが、次回へ持ち越したいと思います。次回、よろしくお願ひいたします。

長時間にわたり、ありがとうございました。

9 その他

次回開催は、9月20日(水)18:30とし、閉会。